



墨田区のアクティブラーニング



副会長 長田 朋久

平成30年も、あっという間にもう5月です。天皇陛下の在位が平成31年4月末日までと決まり、残り少ない「平成」の時代を有意義に過ごすために、残り1年をどのような1年にするかと思いを巡らせています。「昭和」の時代の最後は突然訪れました。「天皇崩御」のニュースが駆け巡り、その後、官房長官が額に入った「平成」の文字をテレビで発表した様子を見た時の印象は今でも脳裏に焼き付いています。この度の「天皇譲位」の知らせは、十分な心の準備期間があるため、新たな時代に向けた漠然とした希望を抱きながらも、残された平成時代を思い出深い1年にしたいと考えています。

さて、墨田区における取組をご紹介します。墨田区では、子ども・子育て会議の中に「乳幼児部会」を設置しています。平成27年度より「子ども主体の協同的学びプロジェクト」を実施、30年度は4年目を迎え少しずつ拡がりを見せています。一体何かというと、これは平成27年度に施行された「子ども・子育て支援法」の法の主旨が、待機児童解消のための「量の拡大」と同時に、保育や教育の「質の向上」を目指していて、墨田区ではもちろん待機児童解消のための「量の拡充」に鋭意努力していますが、他方「質の向上」に着目し、「子ども・子育て会議」の会長である玉川大学の大豆生田教授の発案により始まったプロジェクトで、墨田区内の公立保育園・私立保育園・公立幼稚園・私立幼稚園のそれぞれ代表園が毎年1園ずつプロジェクトに加わり、5歳児を中心に「子ども主体の協同的学び」の教育・保育について取り組んでいきます。公立・私立の垣根を越え、保育園と幼稚園の垣根を越えて、それぞれの園が同じ学びのもとに、教育・保育を展開し、その結果を毎年年度末に区民や区内教育・保育関係者に向けた研究報告会として開催している取り組みで、区長を始め区民の皆様からも期待が寄せられています。

平成29年度は、横川橋保育園（区立）ひきふね保育園（公設民営）・言問幼稚園（私立）・たちばな幼稚園（区立）の4園が代表園となり、それぞれの園にはアドバイザーとして玉川大学大学院教授 岩田恵子氏（横川橋保育園）・関東学院大学 三谷大紀先生（ひきふね保育園）・田園調布学園大学大学院教授 高嶋景子氏（言問幼稚園）・和泉短期大学 松山洋平先生（たちばな幼稚園）という各先生方が1年間担当され、子ども主体の協同的学びの教育・保育について実践を深めています。各園では、大豆生田会長が執筆された「子ども主体の協同的な学び」が生まれる保育」という本をテキストにしなが、保育の実践を積み、中間では、公開保育を実施、区内の教育・保育関係者を中心に参加者を募り各園が20名～40名程度の参加者に公開しています。

この「子ども主体の協同的な学び」という考え方は、将来のAI時代の到来を見据えて、昨今の学校等における「アクティブラーニング」の考え方を取り入れた、子どもたち自身が自ら考え行動し、協力し合い、学び合い、展開し学習を深めていくという、これまでの暗記中心・大人からの指導中心の教育から180度転換した教育方法です。漢字をいくつ覚えているか、数学の公式をいくつ覚えているか、歴史の年号をいくつ知っているか、元素記号をいくつ覚えているかというこれまでのテスト問題から、どのような発想で、何と何を使って何を作り出す（答えを探していく）といった、新たな教育の仕組みに呼応していく取組なのです。いくつ覚えているかはスマホで検索すればすぐわかる時代に、人間に求められているのは、豊かな発想力や創造力・応用力、そして理性や協調性・社会性であり、今回の教育要領・保育指針の改訂にもつながっています。このような取り組みを墨田区では平成27年度から先駆けて取り組んでいます。